

はじめに

昨今の教育界には、様々な課題が山積しております。

昨年11月には、奈良市内で小学生の痛ましい事件が起こり、当該の学校、地域だけではなく、広く全国にその不安の影を投げかけました。事件はその後、解決をみましたが、尊い命はかえらず、このような痛ましい事件が再び起こることのないよう、地域の方々のご協力も得ながら、子どもの安全の確保を一層図っていかねばなりません。

また社会では、フリーターやニートと呼ばれる職業に就かなかつたり、定職を持たなかつたりする若者が増加しており、学校教育において、小学校段階から系統的なキャリア教育を推進していくことが求められています。

一方、昨年末に発表されました、PISA（ピサ）やTIMSS（ティムス）といった学力に関する国際的な調査結果などを受け、子どもたちの学力や学びに対する姿勢について様々な論議がなされているところです。また、小・中学校におけるLD（学習障害）、ADHD（注意欠陥／多動性障害）、高機能自閉症等の児童生徒への適切な指導及び必要な支援を行う「特別支援教育」も動き出しつつあります。

当教育研究所においては、これらの状況を踏まえつつ、「確かな学力の育成」、「豊かな人間性の育成」、「たくましい心身の育成」を重点に研究を行い、その成果を「研究紀要 第12号」並びに「研究集録 第12号」として発刊いたしました。「研究紀要」は、当教育研究所の指導主事等の研究、「研究集録」は、平成16年度奈良県立教育研究所長期研修員及び奈良県教育委員会指定研究員による研究をまとめたものです。

これらの研究成果をご一読いただくとともに、研究をより一層発展させるためにも、ご教示、ご意見を賜れば幸いに存じます。

なお、末筆となりましたが、調査研究のためにご指導、ご協力を賜りました皆様方に、心からお礼申し上げます。

平成17年3月

奈良県立教育研究所

所 長 井 上 喜 一